

近代英語協会ニューズレター

2013年(平成25年)12月27日

近代英語協会事務局

〒156-8550 東京都世田谷区桜上水 3-25-40

日本大学文理学部英文学科保坂研究室内

協会ホームページ <http://www.modernenglish.jp/index.html>

(電話: 03-5317-9709 英文学科代表番号)

年会費振替口座 00810-9-5821)

1 新会長の挨拶

本年7月から、米倉純前会長の後任を仰せつかることになりました。理事の諸先生方をはじめ、事務局長の保坂道雄先生、編集書記の堀田隆一先生のご協力を得て、微力ながら学会の運営に尽くしたいと存じます。

本学会は、会員数が250名という比較的小規模な学会ではございますが、昨年、目出度く30周年を迎えることができました。現今の学界を取り巻く厳しい状況はございますが、この大きな節目を契機とし、更なる発展が期待されております。そのためにも、今まで以上に、会員の皆様が本学会の活動に積極的に参加できるような学会にしていければと願っております。

会員の皆様には、今後一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

児馬 修

2 近代英語協会第31回大会について

第31回大会は、2014年6月28日(土)に、日本大学文理学部(京王線下高井戸駅から徒歩10分)において開催されます。

シンポジウムは、「統語構造と線形順序：語順をめぐって(仮題)」という統一テーマの下、法政大学の沢村ふよう先生(「名詞句内の語順」を担当)に司会と講師を、札幌大学の時崎久夫先生(「語順と語強勢の歴史変化」を担当)、鶴見大学の宮下治政先生(「人称代名詞目的語の語順」を担当)に講師を務めていただきます。

個人研究発表の締め切りは2014年1月31日(木)です。発表をご希望の方は、(a)発表題目と300字程度の要旨、(b)氏名・所属・職位・略歴・連絡先(住所、電話番号、e-mailアドレス)を別文書として作成し、下記の(ア)、(イ)いずれかの方法でお申し込み下さい。

(ア) 電子メールによる応募

- ・(a) MSWord 文書、及びその pdf. ファイルを添付。
- ・(b) MSWord 文書のみ。

宛先 hosaka@chs.nihon-u.ac.jp

(イ) 郵送による応募

- ・MSWord で作成された(a), (b)を入れたフロッピーディスクまたは CD-R
- ・打ち出し原稿

宛先 〒156-8550

東京都世田谷区桜上水 3-25-40

日本大学文理学部英文学科

保坂道雄

3 『近代英語研究』第 30 号の発行について

3 編の論文、1 編の研究ノート、2 編の書評のご投稿がありました。ご応募いただきありがとうございました。編集委員会の厳正なる審査結果は次のとおりです。2014 年6月の発行を目指して、現在編集作業が進められております。

	論文	研究ノート	書評
掲載可	1	1	
再審査	2		2
掲載不可			

4 『近代英語研究』第 31 号の投稿締め切りについて

第 31 号 (2015 年6月発行) の投稿締め切りは 2014 年 9 月 15 日 となっております。ふるってご応募ください。審査はすべて匿名で行われます。応募要領は、協会ホームページ左下「出版物」の中の「投稿要領」、あるいは、協会誌最新号の奥付の前の 2 ページ分をご覧ください。なお、応募原稿、同電子ファイルの送付先は以下の通りです。

電子ファイル

sme.meajapan@gmail.com

打ち出し原稿

〒192-0351 東京都八王子市東中野 742-1

中央大学文学部 堀田隆一

なお、『近代英語研究』に掲載しておりますように、英語論文に関して、英語を母語としない投稿者については投稿前に必ずネイティブ・スピーカーによる原稿のチェックを受けた上で応募下さい。また、学会誌への二重投稿はお控え下さい。

5 新編集委員長について

新委員長として、川端朋広先生（愛知大学）が選出されました。任期は、2014年4月1日～2015年3月31日の1年間です。どうぞよろしく願いいたします。

6 編集委員の交替について

2014年3月末日をもって、編集委員の石崎保明・太田聡・尾崎久男・脇本恭子先生の4名（五十音順）が任期満了となります。2期4年間に亘り、協会の運営にご尽力いただきありがとうございました。

これを受けて、編集委員会では、新たに大村光弘（静岡大学）・長野明子（東北大学）先生を新委員に選任し、現在あと2名の委員の選出が進行中です。正式に決まり次第、本学会ホームページにてお知らせ申し上げます。どうぞよろしく願いいたします。

7 近代英語協会最優秀新人賞ならびに優秀学術奨励賞について

『近代英語研究』第29号掲載論文の中から、堀田隆一先生（中央大学准教授）の *The Diatonic Stress Shift in Modern English*（『近代英語研究』第29号, pp. 1-20）に優秀学術奨励賞が授与されることは、既に総会とニューズレター夏号でお知らせしたとおりです。授賞理由を本ニューズレターに掲載することになっておりましたので、ここに記します。

授賞理由

本論文は、たとえば *récord*(n.)—*recórd*(v.) のように、名詞と動詞で強勢型が異なる2音節語の同綴ペア（以下、「名前動後ペア」）がどのようにして生じ、発達してきたのかを詳細に記述・説明した労作である。先行研究の問題点の指摘、問題解決のための客観的考察、それらの総括と今後の課題が示されるなど、論文の構成がよく練られている。

本論では、次の3つの目標が掲げられている。

- (1) 近代英語期において名前動後ペアが発達した様子を概観する。
- (2) 名前動後ペアが長い年月の間にどのように拡散したのかを捉える。
- (3) 名前動後ペアがなぜ生じるようになったのかを説明する。

(1) の目標に関しては、名前動後の強勢について、とかくその傾向が強調されがちであるが、*Sherman (1975)* によると「名前動後」は11.41%に過ぎず「名前動前」が72.24%を占めているという。*Sherman* の分析では16世紀から18世紀の例しか研究対象に挙げられていない。そこで筆者は、英米の15種類の辞書を基に、19世紀から20世紀に（一部は21世紀にも）及んで調査をしている。さらに400年以上に及ぶ名前動後ペアの発達の様子を分かりやすくグラフで示している。(2) の拡散の問題について筆者は、*Phillips (2006)* の「語の使用頻度が、名前動後型になるか否かに影響を与える」という

主張を検証するために、American National Corpus を用いた分析を行っている。その結果、語の使用頻度よりも接頭辞の種類の方が重要であるという Phillips とは異なる結論を出している。(3)の名前動後の強勢が16世紀後半の初期近代英語期においてより広まっていったことに関しては、それまでの時代に存在した屈折の消失、16世紀のラテン語系借用語の流入などの歴史的要因や、韻律に関係するリズム交替といった言語学的な条件等、複数の要因が相重なった累積効果によるものとしてまとめている。

本論文は、どの先行研究よりも詳しく徹底したデータの収集・分析を行い、実証的な議論を行っている点において高く評価できる。しかしながら、多くの要素を盛り込んでいるため、考察が煩雑になっているところがあり、その一方、幾分あいまいなままに終わっている箇所もある感が否めない。よって、「優秀学術奨励賞」には値しても、「最優秀新人賞」には惜しくも至らないと判定した。

—『近代英語研究』編集委員会

なお、次号、第30号分の受賞者の有無は、第31回大会および来夏のニューズレターでお知らせします。

既にご案内のとおり、賞には、最優秀新人賞と優秀学術奨励賞の2種類があります。若手による当該年度の掲載論文の中から、前者は特に秀でていた論文に、後者は、最優秀新人賞には至らないが将来性を感じさせ優れていると評価された論文に与えられます。論文応募の際、「執筆者情報ファイル」の該当欄に(√)をご記入いただくだけで結構です。選考対象は、「協会誌への掲載が可となった、投稿締切日時点で37歳以下の、または修士号取得後10年以内の執筆者による論文のうち、原稿応募時に「執筆者情報ファイル」において賞の選考を希望する意思が表明されていた論文」(選考規程第2条より)です。

8 『近代英語研究』電子アーカイブ化

独立行政法人科学技術振興機構のサイトに、『近代英語研究』が電子アーカイブ化されています。次のサイトにアクセスしていただければ、創刊号から第24号(2008)までの論考をパソコン画面上でお読みいただいたり、印刷して活用したりしていただけます。

- ・「journal@rchive」と入力
- ・「journal@rchive - J-Stage - 科学技術振興機構」を左クリック
- ・「Japanese」を選択
- ・右上「誌名」ボックスに「近代英語研究」と入力し、「検索」をクリック
- ・青字の「近代英語研究」を左クリック
- ・画面左端の「巻号一覧 近代英語研究」からお探しの号を左クリックし、目指す論考の「本文PDF」を左クリックしてください。

なお、『近代英語研究』の冊子と同様に、すべての著作権は本協会に帰属することをご了解いただきたく存じます。

9 30周年記念論文集について

1983年5月に産声を上げた近代英語協会は、2013年5月にめでたく創設30周年を迎えました。30周年記念行事の一環として、『近代英語研究第30号』とは別に、30周年記念論文集の刊行が、2014年5月出版予定で進行しております。多くの会員の皆さまからご投稿並びにご寄付等を頂きましたことを、心より御礼申し上げます。

10 会費納入のお願い

近代英語協会の財政は、依然厳しい状況にあります。まだ、会費未納の方は、恐れ入りますが、早めにご入金下さいますよう、お願い申し上げます。

11 事務局より

本年10月より、新会長児馬修先生の下、事務局の仕事を担当させて頂いております。前事務局長の中村不二夫先生による周到な引き継ぎ作業のお陰で、実質的な初仕事であるニューズレターの刊行を行うことができました。不慣れた事務局のため、ご不便をお掛けすることがあるかとも存じますが、ご意見等ございましたら、是非当方までお知らせ頂ければ幸いです。この4年間、本学会のためにご尽力頂きました米倉綽前会長、中村不二夫前事務局長、並びに各役員の皆様方に、心より御礼申し上げます。

なお、協会に関するお問い合わせとご連絡は下記にお願いできればと存じます。今後とも何卒よろしくお願い申し上げます。

- 協会誌について
堀田隆一
(sme.meajapan@gmail.com)
- ホームページについて
川端朋広
(kawabata@aichi-u.ac.jp)
- その他全般について
保坂道雄
(hosaka@chs.nihon-u.ac.jp)

—事務局長 保坂道雄

どうか、良い年をお迎えください。